

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400022		
法人名	社会福祉法人 高洋会		
事業所名	グループホーム ちゃたん		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町宮城1番793		
自己評価作成日	平成27年10月21日	評価結果市町村受理日	平成28年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4792400022-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年 11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その方のペースに合わせて、楽しく生活できるように努めている。掃除や洗濯など、本人が出来ることを行ってもらうことで、役割を持って生活できるように支援している。毎日個別活動を重点的に行うことで、身体機能の維持、認知能力の維持を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念は「人財育成」「顧客満足」「地域貢献」が謳われ、職員は日々の申し送りや会議等でケアや業務内容等について話し合い、利用者のバックグラウンドを理解し、個々のケアの共有を図り、支援している。法人が取り組む地域清掃に職員が毎回参加や小学生の職場体験受け入れ、地域のミニデイ参加と地域に開かれた事業所を目指して取り組んでいる。今年度は行政の呼びかけで、金融機関での認知症理解の為に講師も務めている。食事は利用者の楽しみの一つであり、「おいしいものを、おいしく提供する」という法人の考え方や、利用者の個々のペースに合わせた時間や食の形態等にも配慮がされ、毎回完食している。嗜好品は買い物支援で対応している。医療面では訪問診療医の協力の下、利用者の健康状態や相談、急変時の対応など日頃から連携が取られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年12月25日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職の際に職員へ理念の説明を実施。勉強会などで理念について再確認を行っている。	開設時に管理者と職員が地域密着型サービスとしての意義を踏まえて作成している。日常的な支援の場面では、個々の利用者のバックグラウンドを十分に理解し、安心して暮らせるように環境を整え、理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回程度、地域の方々が踊りのボランティアに来てくれているが、日常的な交流は持っていない。	毎月の民舞サークルの訪問や保育園児との交流がある。今年度は地域との交流を広げるため、地域のミニデイの利用を始めている。法人が取り組む地域清掃に職員が毎回参加し、認知症サポーターの講師や職場体験受入と、地域貢献しているが、日常的な地域との交流については模索している。	管理者の考える、「地域住民が気軽に訪れる開かれた事業所」をめざし、地域へ積極的に働きかけることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で、月に1回程度、地域の清掃ボランティアを実施している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、会議の中でグループホームの現状について報告を行っている。委員からの意見を聞いてサービス向上につなげるようにしている。	会議には利用者や家族、地域、行政が参加して定期的開催され、事業所の運営状況や防災訓練、外部評価結果や現在の取組等も報告している。ヒヤリハットや事故、対応も報告している。意見や助言には次回の会議でその後の対応状況を報告し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員の中に町の職員が参加しており、事業所での取り組みについては報告出来ている。また、最近では地域住民への認知症啓発活動について町職員と相談中。	利用者と一緒に行政手続きで窓口を訪れたり、運営推進会議での情報交換や苦情・困難な事例の相談を行うなど連携している。町担当者からの依頼で、認知症啓発活動として金融機関での講師を務めたり、行政の提案で町内4事業所の認知症連絡協議会が発足されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、委員会を中心に勉強会を行うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間帯は職員が1人になるため、玄関に施錠を行うことがある。	身体拘束委員会を中心に、年2回の研修会への参加や、職員会議で事例を基にグループ討議を行うなど、職員の共有認識を図っている。転倒や安全確保のためセンサー対応の利用者はいるが、抑圧感を招かないよう工夫している。家族への説明も行っている。	

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり、虐待についての情報共有に努めている。また、勉強会を開催し、職員の意識向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している利用者が1名いる。後見制度について学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明を行っており、十分に理解が得られるように勤めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は申し送りノートへ記入した、会議等で報告するなどして、職員間で共有できるように努めている。	利用者からの意見や要望は職員と話し合い、散歩や買い物機会を増やしたり、家族の来訪を多くしてもらうなど反映させている。家族の意見は来所時や運営推進会議等で把握し、不満や苦情にはチェック方法や申し送りを徹底するなど共有できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所会議を実施しており、職員からの意見を出してもらい、皆で検討している。	毎月の職員会議や日々のミーティング等で意見を聞く機会があり、介護ケアの方法や業務改善等に反映されている。法人からは外部研修や資格取得のための支援があり、勤務希望のアンケート調査も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士等、資格取得により給与水準が上がっていく仕組みがある。また、勤務の希望など本人の要望に応えるように努めている。外部研修への参加も出来るだけ行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の勉強会、事業所内の勉強会等を行っており、スキルアップが出来る環境を作るように努めている。新職員については、担当の職員が付いて指導することで教育を行っている。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他のグループホームと連絡を取り合っている。最近から連絡会を開催して行こうと取り組みを行っている。また、外部の研修などへ参加し、同業者との意見交換等が行えるようにしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面接を行い、本人の希望等を聞き、プランに反映させるよう努力している。また、職員からも声掛けを多くして、要望や問いかけに対して耳を傾けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を行い、家族の要望、困っている事を聞き、プランに反映させて、良い関係であるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等で収集した情報を元に、他のサービスも視野に入れ、必要としているサービスを提供するよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の清掃や片付けなど、利用者が出来ることを見つけて行ってもらうことで、役割を持って過ごすことが出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された際に日頃の状況を伝えたり、電話にて伝えたりなど常に連絡を取るようしており、家族との関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通っていたなじみの理容室を現在も利用出来る用に支援するなど、なじみの人や場所との関係が途切れないように努力している。	利用者の地域のミニデイサービスの利用や運動会見学へと支援している。又、階下の通所事業所と合同の敬老会や行事に参加することで、地域との交流が継続できるよう働きかけている。	

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の挨拶や夕食前の雑談などで出来る限り皆と一緒に話す機会をもっている。利用者同士の相性を考えて席の配置を決める等している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族と連絡を取って、相談などを聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に聞いたり、様子を観察したりして、本人の思いや希望、意向を把握するように努め援助するように努めている。	アセスメントで利用者一人一人の思いや課題を把握し、日々の関わりの中で直接思いを聞いている。職歴を把握し、関連する環境を用意したり、表出が困難な場合は日々の行動や表情、回想法等で把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や、入居後の情報収集によって生活歴などを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握するように努め、その方のペースで生活できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や事業所の会議などでその方の課題やケア方法を検討し、プランに反映させている。	利用者・家族の思いや意見は、サービス担当者会議や日頃の関わりの中で聞き、半年毎のモニタリング、アセスメントも含め介護計画を見直している。状態変化等にはケア方法の検討を行い計画作成している。介護個人記録に支援目標や要点を記し、日常的に共有した支援ができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を準備し、日々の様子を記録して情報の共有が行えるように努めている。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応を心がけている。他サービスを活用するまでには至っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用することは出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用しているかかりつけ医をそのまま利用してもらっており、電話での連携や、受診時に職員が同行したり、情報提供を行ったりして関係を持っている。	他科外来を含む受診は家族対応が基本としている。受診後の治療内容の変更に関する情報は、家族を介して口頭及び文書で提供している。現在4名が重度化を理由に訪問診療へ変更している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないため、かかりつけ医の看護職とやり取りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を行ったり、情報をもったりして連携を図るように努めている。入院時には、定期的に病院を訪れ情報収集するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員の配置が無いため、重度化の対応は難しい旨を入居前に説明している。	医療的ケアが常時求められる状態になった時には、事業所で対応できないことを契約時に家族等に口頭で説明している。現在事業所として重度化や終末期に向けた方針は策定されていない。管理者や介護支援専門員等は終末期対応に向けて前向きに検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、勉強会を開催して、有事の際に対応出来るように努めている。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施している。地域との協力体制はまだ得られていない。	10月に昼間を想定した火災避難訓練を同法人複合施設合同で実施した。夜間想定避難訓練は計画しているがまだ行っていない。自治会へ訓練の参加依頼するが、「協力は難しい」と回答があった。広域地域での津波避難訓練に昨年11月に参加している。食料等の備蓄は厨房及び各事業所の台所収納棚に保管している。	グループホームでは、避難経路も限られていることから早期に夜間想定避難訓練の実施が望まれる。また、近隣住民への協力の呼びかけも引き続き行っていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての勉強会を実施。利用者の人格を尊重し、寄り添うケアを行うように努めている。	日本語の読み書きが苦手な海外出身利用者に対し、ジェスチャーを交えた声かけ等を行い、利用者の自尊心を傷つけないケアを心がけている。又、入浴時や排泄時等プライバシーに配慮し言動等に気をつけるように介護主任や管理者は伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をその都度聞くように努めている。本人が自分で決定することが出来るような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の調子などを見ながら、一人ひとりのペースに合わせて支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する利用者には毎日のひげそりを行うなど、身だしなみに気を配っている。着替えなども本人に決める物を決めてもらいつつ、その時にふさわしい身だしなみが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は温かい物は温かく、冷たい物は冷たく提供するように心がけている。食事は職員も一緒になって摂るようにしており、楽しく食事が出来るように配慮している。片付けを手伝ってもらうこともある。	法人栄養士が立てた献立を基本として、平日3食は同建物1階の厨房から配食される。朝食と日曜日及び祝日は職員が事業所内のシステムキッチンで調理している。職員も利用者と同じテーブルに座り一緒に同じ食事をとっている。ほとんどの利用者が完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は、その人の状態によって個別に合った物を提供するように努めている。メニューについては、管理栄養士がメニューを作成しておりバランスの取れたメニューとなっている。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。一人ひとりの状態に応じた口腔ケア方法で実施し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が無いように訓練したり、一人ひとりの排泄パターンを把握して、失敗の無いように誘導を行うなど支援している。	排泄チェック表や個人記録の活用等で把握し、トイレ誘導を行っている。排泄の自立支援に向け、股関節のトレーニングやボールを使用した下肢筋力トレーニングに取り組んでいる。夜間帯3時間毎のパット確認や本人の訴え時、定時誘導等で利用者の不安軽減につながるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録にて便秘をしていないか把握し、水分補給や運動する機会を持つことで便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的に決まっているが、本人の希望に応じて対応するように努めている。	入浴は週2回が基本であるが、外出時や希望時は対応している。好みのボディソープ・シャンプー等は家族が持参するか利用者が買い物時に購入している。着替え等の服も自分で選べるように支援している。入浴拒否の場合は、時間や曜日を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の睡眠状態を把握しながら、状況に応じて休息を設けたりし、安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の説明書をカルテにはさみ、職員全員が把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビ鑑賞や読書、手工芸など、本人が好む活動を行ってもらっている。本人の役割として、部屋の片付けを職員と一緒にするなどして、役割を持って生活が出来るように努めている。		

沖縄県(グループホームちやたん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物や散歩等行っている。また、個別にドライブに行ったりピクニックなどに出かけたりしている。	10～15分ベランダで日光浴等を行い、短時間でも戸外にでる機会を作っている。気候や体調を考慮しながら近隣の公園に出かけておやつを食べたり嗜好品(ノンアルコールビールや寿司)の買い物や野菜の苗購入等個別の外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が行える利用者については、自分で管理してもらい、買い物などを行っている。管理が難しい利用者については職員が支援し、買い物などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、本人の希望があれば、職員がかけて取り次いだりしている。手紙のやり取りを行う方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室に写真などを飾ったり、季節感のある飾り付けを行ったりして居心地の良い空間作りに努めている。	心地よく空調も適度に調整され、居間兼食堂の壁には利用者の手工芸や季節の作品が掲示されている。建物の設計上、死角予防の為ミラーが設置され、共用空間で職員が利用者の行動を見守りしやすいよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決まっておらず、本人が過ごしやすい場所に座ってもらっている。その際に、利用者同士の相性を考えて、誘導するなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真など本人が大切にしている思い出の品物を飾ったり、使い慣れたものを持ち込んだりしてもらい、居心地よく過ごせるように努めている。	各室内には消耗品や寝具類を置く棚が設置されている。国体選手時代のユニホームを飾った居室や、三味線、家族写真等が置かれた居室など、本人の思い出の品々が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりが設置されており安全に移動出来るように配慮している。トイレの場所を大きく表示して場所が分かるようにするなどして、1人でトイレへ行けるようにしている。		